

# 環境農業新聞

メール:ecoagri-na@sweet.ocn.ne.jp

2023年(令和5年)  
1月15日(日)  
第251号

毎月15日発行  
平成13年4月17日  
第三種郵便物認可

発行所 環境農業新聞社  
編集発行人 成瀬一夫  
東京都葛飾区東金町1-41-9  
〒125-0041 フランス堂ビル3階  
電話 03-3826-5212  
FAX 03-3826-5217  
年間購読料 3,000円(税・送料込)  
郵便振替口座 00150-2-290578

## 主な記事

- …農業分野でLEDライト…(3面)
- …野村農相の年頭所感…(4,5面)
- …みなTVで水のレメディ…(6面)
- …自然農を普及する飛躍の年に…(8面)

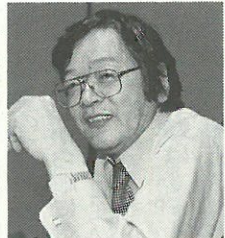


# 謹賀新年

令和5年 元旦

日本豊受自然農の餅つき！神聖なお米で作った縁起のいいお餅を食べることで神様の力を分けてもらえるとの意味があるようです。お正月にお餅を食べるようになったのは、稲作農家の文化が始まりと言われてい

## 巻頭言 本紙主幹



新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひ致します。さて、今年はどう展開していくのでしょうか。

飛び交っています。そうした中、政府は防衛費、子供対策を充実させる方針を打ち出しています。問題は財源ですが、増税せざるを得ない状況になるのではと思われま

としてしまいました。これによって日本の加工品にも疑いの目がいくのではと危惧されます。日本の有機JASは世界に通用しないということも明らかになったのではないのでしょうか。

米国主権の農業政策から日本主権の農業政策にいち早く転換させなくてはと思います。

で発生し、殺処分を自衛隊の支援に頼らざるを得ない状況になってい

依然として収まらないコロナウイルス。新規感染者数は一向に減りません。ワクチン接種を打ったのに咳き出す声も聞かれます。また、ロシアのウクライナ侵略が長期化し、停戦に目処がつかせていません。その影響でエネルギー関連が高騰、食料品の高騰と国民生活に多大な影響を与えてお

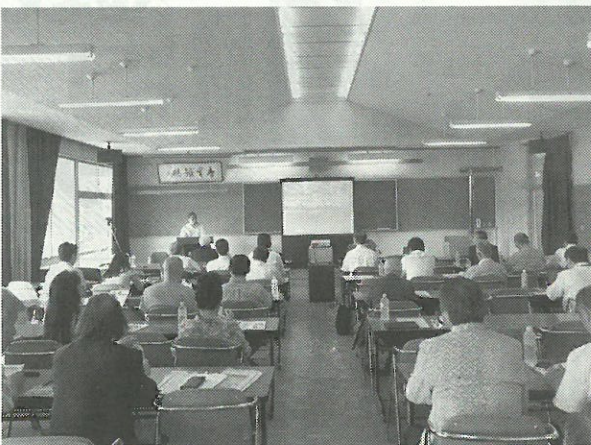
そこでは、難局を越えるために新しい技術、世に出るのを待つ中小企業の技術に着眼を置き、その普及に全力を注ぎたいと思っています。

海外で日本のイチゴが基準値以上の残留農薬が検知されたというニュースがありました。メイドインジャパンの信用を落

れもありません。国益そのものだと思います。餌の作り方、設備が海外に売り渡すことになったら、日本は海外から仕入れるということになる恐れもあります。

それと別に日本では認められないので海外に目を向けているという事例は沢山あるので、政府は真剣に取り組んで貰いたいものです。

## 新技術で難局越え 日本主権の農業政策を



コロナ禍で開催延期になっていた八ヶ岳フォーラム。今年には開催予定に

あちこちでエネルギー危機、食糧危機、戦争危機など危機という文字が

漬け、雑草対策に除草剤使用、ワクチン同様に病気を誘引しているのではと思わざるを得ません。

除菌、殺菌、予防に使えるという次亜塩素酸水も誤った情報で普及し

者庁が空中噴霧の効果を確認していますが、なかなか普及に拍車がかかりま

を振るって各都道府県